

# 令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

## 学校の概要

真田山小	学校	児童数	168
------	----	-----	-----

### 平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	17.19	20.96	35.41	43.18	50.08	9.32	160.37	18.95	55.14
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	16.52	17.11	39.05	39.65	37.75	9.76	134.38	10.39	52.85
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

### 結果の概要

体力合計点の平均点は、男女ともに大阪市平均は上回ったが、女子は全国平均よりは下回っている。種目別に見ると、男子は8種目中7種目と体力合計点、女子は5種目で大阪市・全国平均よりも上回っている。上体起こしと立ち幅跳びの女子の記録が大阪市・全国平均が下回っていた。ソフトボール投げでは男女ともに大阪市・全国平均を下回っていて課題が見られた。

質問紙調査からは、「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」に答えた男子が76.8%、女子が58.5%とともに大阪市・全国平均よりも高い数値となっている。肯定的に答えた児童を入れると9割を超えた。1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合は男子が6.6%で大阪市・全国平均よりも低い数値であった。しかし、女子は20%で大阪市平均と同じで全国平均よりも高かった。運動に対する意識面では、授業のめあてや振り返りを通して「できたり、わかたり」と感じている児童が多いこと、保健の授業で学習した運動、食事、休養および睡眠に気をつけた生活を送れていると思う児童が多いことが分かった。

### これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

児童数が多く、運動場が狭い。令和3年に新校舎が建って以降、その環境面の影響は大きい。休み時間は2学年ずつの開放に制限しているため校内で自由に運動に親しむ機会は少ない。クラス数も増えてきたため、体育科の学習は2クラス合同で行っているクラスが多いことも影響していると考えられる。学習場所の確保のため真田山グラウンドを活用するなど、環境面による影響がなるべく出ないように工夫している。

運動面では、ボール投げの巧緻性や筋力の向上が課題である。今回の質問紙の結果からいろんな種目を体験できた時や記録に挑戦したり、記録があがったり、競い合ったりしたときに体育の学習が楽しいと感じる児童が多かったことから、個人のため（目標）設定や授業後の振り返り活動、仲間と教え合う場の設定、ICTの活用など、授業づくりにおける工夫を図っていく。

授業場面以外には、チャレンジなわとびタイムの取組等、運動に親しむ機会をしっかりと確保していく。児童が将来豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成できるよう、資源を効果的に活用して取組を進めていく。